

今週の見頃写真

6月30日編集

〇有峰における草原の昆虫

猪根平の草原、多目的広場では、シロツメクサ（マメ科）、アカツメクサ（マメ科）、ブタナ（キク科）、コウゾリナ（キク科）、ニガナ（キク科）などが一斉に咲き始めました。初夏の有峰は天然の花園です。有峰にも帰化植物（外来種）の波が押し寄せています。

今週はこうした野草に訪花する昆虫を紹介します。



帰化植物ブタナ（キク科）で吸蜜中のモンキチョウ♂
（シロチョウ科）（6/27 多目的広場にて撮影）



多くの野草が咲き始めた多目的広場（6/27 撮影）



帰化植物アカツメクサ（マメ科）で吸蜜中のモンキチョウ♀
（シロチョウ科）（6/27 多目的広場にて撮影）



帰化植物ブタナ（キク科）で吸蜜中のコチャバナセセリ
（セセリチョウ科）（6/27 多目的広場にて撮影）



交尾拒否行動を示すモンキチョウの♀、♂が配偶行動をとろうと♀に近づいてきました
（6/27 多目的広場にて撮影）



帰化植物ブタナ（キク科）で吸蜜中のスジグロシロチョウ
（シロチョウ科）（6/27 多目的広場にて撮影）

○ウラギンヒョウモン（タテハチョウ科）

草原が似合う、初夏を彩る代表的なヒョウモンチョウです。最近日本のウラギンヒョウモンはDNA分析をもとに新たに3種1亜種に分類されています（新川勉・岩崎郁雄著/日本のウラギンヒョウモン/ヴィッセン出版）。有峰は標高1000~3000mの高原盆地です。分布しているのはヤマウラギンと思われます。有峰では、成虫が、ブタナ（キク科）、シロツメクサ（マメ科）、アカツメクサ（マメ科）やノアザミ（キク科）などに訪花し、吸蜜している姿が観察できます。



アカツメクサで吸蜜中のウラギンヒョウモン
（タテハチョウ科）（6/27 多目的広場にて撮影）



アカツメクサで吸蜜中のウラギンヒョウモン（タテハ
チョウ科）（6/27 多目的広場にて撮影）



ノアザミで吸蜜中のウラギンヒョウモン

（タテハチョウ科）（冷タ谷キャンプ場にて 6/27 撮影）

○トラマルハナバチ（ミツバチ科）

花粉媒介者として知られるマルハマバチの仲間です。有峰では、初夏、シロツメクサ（マメ科）やアカツメクサ（マメ科）などに訪花し、吸蜜、花粉を集めています。



アカツメクサ（マメ科）で吸蜜中のトラマルハナバチ
（ミツバチ科）（6/27 多目的広場にて撮影）

○ツマジロウラジャノメ👉ビジターセンターに現 る！

6月27日の昼下がりに、突然ツマジロウラジャノメの👉
（タテハチョウ科）がビジターセンターに飛来しました。
シロツメクサ（マメ科）やニガナ（キク科）に訪花し、
吸蜜していました。また、食草のクサヨシ（イネ科）にも
止まり産卵する行動も観察されました。



シロツメクサに訪花中のツマジロウラジャノメ👉
（6/27 撮影）



地面に静止中のツマジロウラジャノメ🐦 (6/27 撮影)



ニガナで吸蜜中のツマジロウラジャノメ🐦
(6/27 撮影)

○有峰における森林の昆虫

○ミヤマクワガタ (クワガタムシ科)

頭部や大あごに毛があり、表面がさびたような感じがする威厳のある甲虫です。有峰では幼虫は、ブナやミズナラなどの枯れ木を食べて生育していると考えられます。子供達の憧れです。ミヤマクワガタ成虫との出会い、今年は早いように感じます。成虫はミズナラやヤナギ類の樹液に集まります。



シラカバの幹で静止中のミヤマクワガタ🐞
(猪根平にて 6/28 撮影)

○植物編

○冷タ谷のササユリ咲き始める！

冷タ谷のマドンナこと、ササユリ (ユリ科) が冷タ谷キャンプ場で咲き始めました。高さ 50~100 cmになる多年草です。和名は、笹ユリで、葉がササに似ていることに由来します。淡紅色の花が魅力的です。淡紅色の花からは、強い芳香が漂っています。



(冷タ谷キャンプ場にて 6/24 撮影)



(冷タ谷キャンプ場にて 6/24 撮影)